



掲載されている観点の例

教育基本法	No. 1	情報モラル	No. 31
「特別の教科 道徳」の目標	No. 2 ～ No. 7	防災、安全	No. 32
個別最適な学び	No. 8	伝統、文化	No. 33
協働的な学び	No. 8 ～ No. 10	先人に学ぶ	No. 34
令和の日本型教育	No. 8	スポーツ	No. 35
主体的・対話的で深い学び	No. 9	国際理解教育・平和教育	No. 36
考え、議論する道徳	No. 10	SDGs	No. 37
学校の働き方改革	No. 11	自然や環境問題	No. 38
道徳科の評価	No. 16	消費者教育	No. 39
言語活動	No. 18	主権者教育	No. 40
家庭や地域社会との連携	No. 19 No. 33	法教育	No. 41
問題解決的な学習	No. 20	知的財産権	No. 42
体験的な学習	No. 20	心身の健康	No. 43
若手教員の支援	No. 21	キャリア教育	No. 44
ICT 端末の活用	No. 22	食育	No. 45
QR コンテンツ	No. 22	性の多様性	No. 46
小中高連携	No. 24	人権教育	No. 46
学年間連携	No. 25	ダイバーシティ	No. 46 No. 55
いじめの防止	No. 28	ユニバーサルデザイン	No. 47 No. 51 No. 57
生命の尊厳	No. 29	特別支援教育	No. 56 ～ No. 59
自己肯定感	No. 30	外国籍の生徒への配慮	No. 58

「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

〔 本社 〕
〒114-8524 東京都北区堀船 2-17-1
TEL：03-5390-7402 FAX：03-5390-6014

〔 支社・出張所 〕
札幌 011-562-5721 仙台 022-297-2666
東京 03-5390-7467 金沢 076-222-7581
名古屋 052-950-2260 大阪 06-6397-1350
広島 082-568-2577 福岡 092-771-1536
鹿児島 099-213-1770 那覇 098-834-8084

ホームページ
<https://www.tokyo-shoseki.co.jp>

教育情報サイト 東書 E ネット
<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp>

令和7年度用
新編 新しい道徳
・・・

検討の観点と 内容の特色



目次

検討の観点と内容の特色

- ① 教育課程及び、学習指導要領への対応
 - 02 教育基本法に示された教育の目的と教育の目標
 - 02 「特別の教科 道徳」の目標
 - 03 教育課程のキーワード

② 教科書構成上の配慮と工夫

- 03 構成・配列・分量
- 04 指導上の配慮

③ 教育課題への取り組み

- 06 現代的な課題への対応
- 06 さまざまな教育課題への取り組み

④ 全ての生徒が使いやすい教科書への配慮

- 08 表記・表現
- 08 造本・印刷
- 09 人権上の配慮
- 09 特別支援教育・ユニバーサルデザイン

10 教材別テーマ対応表

16 教材一覧 **指導順**

18 教材一覧 **内容項目別**

20 Plus（コラム）一覧

21 QR コンテンツ一覧

① 教育課程及び、学習指導要領への対応

教育基本法に示された教育の目的と教育の目標

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
1	教育基本法第1条の 教育の目的 及び同法第2条に掲げる 教育の目標 を達成できるか。	教育基本法第1条の教育の目的及び、同法第2条各号に掲げられた教育の目標の達成に資するよう、「特別の教科 道徳」の目標及び内容に照らして、教材や資料が適切に選定、配列されている。	●教科書全体

「特別の教科 道徳」の目標

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
2	教育活動全体を通じて行う 道徳教育の目標 に基づいた、道徳科の授業を行うことができるか。	学習指導要領第1章総則の第1の2の（2）に示された 道徳教育の目標に基づいた道徳科の授業 が行えるよう、各学年35教材を配置し、さらに付録に4教材を配置することで、 補充、深化、統合 の役割を果たせるよう構成されている。	●「目次」(各学年巻頭)
		各教材冒頭に 他教科関連マーク を付すことで、他教科との関連が明示されている。	●各教材冒頭右下
		各学年巻末の「 教材一覧表 」に、他教科との関連が明示されている。	●「教材一覧表」 (1年p.190～191、2・3年p.198～199)
3	自己を見つめる ことができるか。	全教材に 自己を見つめるための発問「見つめよう」 が用意されている。	●各教材末「見つめよう」(発問)
		巻末に切り取り式の「 自分の学びをふり返ろう 」を用意し、学期ごとに自己を見つめることができるよう配慮されている。	●「自分の学びをふり返ろう」 (1年p.193～197、2・3年p.201～205)
4	道徳的諸価値 について理解することができるか。	どの内容項目をどの教材で学ぶことができるのかを明確にするため、 内容項目別の一覧表 が、各学年の巻頭と巻末に配置されている。	●「1年間で学ぶこと」(各学年p.2～3) ●「教材一覧表」 (1年p.190～191、2・3年p.198～199)
		ねらいとする内容項目がぶれないよう、全教材冒頭に 学習のテーマ が設定されている。	●各教材冒頭右上
5	物事を広い視野から多面的・多角的 に考えることができるか。	新聞の投書欄を教材化し、さまざまな人の意見を基に 多面的・多角的 に考えられるように構成されている。	●「ごみ箱をもっと増やして」(1年p.107～109) ●「好きな仕事が安定かなやんでいる」 (3年p.107～109)
		一つの内容項目を複数の人の立場から考えさせる教材を通して、 多面的・多角的 に物事を考えることができるよう配慮されている。	●「思いやりの日々」(1年p.102～105)
6	人間としての考えを深める ことができるか。	各教材末の発問に「 ぐっと深める 」を設け、「考えよう」「見つめよう」の発問をさらに 深く考える ための投げかけが行われている。	●各教材末「ぐっと深める」(発問)
		道徳の教材として 長年親しまれてきた 、さまざまな人たちの生き方を描いた教材が多く用意されている。	●「いつわりのバイオリン」(1年p.167～171) ●「足袋の季節」(3年p.155～157)、等
7	道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度 を育てることができるか。	道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度 が育つ教材が、バランスよく配置されている。	●全ての教材
		防災教育 を通して 道徳的判断力 を育む教材が、全学年に配置されている。	●「夕暮れどきの避難」(1年p.73～75) ●「水辻村の決断」(2年p.83～85) ●「避難所での出来事」(3年p.73～75)

教育課程のキーワード

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
8	個別最適な学びと、協働的な学びの実現を目指す、令和の日本型教育の構築に 配慮されているか。	生徒一人一人の個性に応じて教材を読むことができるよう、 速度調節機能付きの朗読音声 をQRコードから再生することができる。	●朗読音声(各教材冒頭のQRコード)
		各学年巻末の「 心情円 」を活用することで、話し合いの活動を円滑に行うことができる。	●「心情円」(各学年巻末)
9	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に 配慮されているか。	写真やイラスト を見て自ら問題を見だし、その問題についてグループや学級で話し合う活動が全学年に設定されている。	●「私の『ふつつ』と、あなたの『ふつつ』」 (1年p.115～118) ●「魔法使いの少年－いつかの自分」 (2年p.50～53) ●「その子の世界、私の世界」(3年p.102～105)
		各教材末の発問に「 ぐっと深める 」を設け、深い学びへいざなうよう配慮されている。	●各教材末「ぐっと深める」(発問)
10	考え、議論する道徳を実現 することができるか。	各教材に「 つぶやき 」を設け、考えたことを生徒が各自メモできるよう配慮されている。メモしたことは話し合いにも活用できる。	●各教材脚注「つぶやき」
		各学年巻末の「 心情円 」を活用することで、話し合いの活動を円滑に行うことができる。	●「心情円」(各学年巻末)
		全学年に掲載されている「 道徳×防災 」教材では、立場を分けて議論する活動が設定されている。	●「夕暮れどきの避難」(1年p.73～75) ●「水辻村の決断」(2年p.83～85) ●「避難所での出来事」(3年p.73～75)
11	学校の働き方改革に寄与 できるよう、配慮されているか。	評価文例を作成するシステム や、 場面絵データ などを収録した教師用指導書の発行が予定されている。	●教師用指導書
		授業の導入や終末で活用できる映像をQRコードから視聴することで、 授業の準備時間を短縮 できるよう配慮されている。	●「倉橋選手のメッセージ」(1年p.80、QRコード) ●「吉藤オリィさんのメッセージとOriHimeの活動」(2年p.8、QRコード) ●「宇宙で船外活動を行う野口聡一さん」 (3年p.165、QRコード)

② 教科書構成上の配慮と工夫

構成・配列・分量

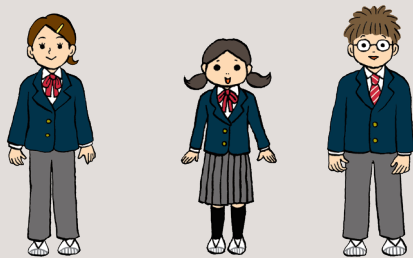
No.	検討の観点	内容の特色	具体例
12	よりよく生きるための基盤となる道徳性を養えるよう、教科書の構成は十分 配慮されているか。	各学年の教科書は、 本編教材 、「Plus」(コラム)、 付録教材 の3つで構成されている。コラムや付録教材を活用することで、本編教材の補充を図り、道徳性を養えるよう配慮されている。	●「目次」(各学年巻頭)
		いじめ問題と生命尊重 の教材をそれぞれ ユニット化 し、一つのテーマを集中して扱うことで道徳性を養えるよう配慮されている。	●「目次」(各学年巻頭)
13	生徒や学校の状況に照らして、 内容の選択や程度、分量は適切 か。	道徳科の授業の量的な担保ができるよう、各学年の標準時数に合わせた数の教材(各学年35教材)が本編教材として掲載されている。	●「目次」(各学年巻頭)
		学習指導要領第1章総則の第6の2に示された指導内容の重点化を踏まえ、次の内容項目を 重点指導内容項目 に設定し、複数の教材が配置されている。 A (1)自主、自律、自由と責任／ A (2)節度、節制／ B (6)思いやり、感謝／ B (8)友情、信頼／ B (9)相互理解、寛容／ C (10)遵法精神、公德心／ C (11)公正、公平、社会正義／ C (12)社会参画、公共の精神／ C (13)勤労／ D (19)生命の尊さ／ D (22)よりよく生きる喜び ※上記に加え、1年は C (16)郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度、2年は C (17)我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度、3年は C (18)国際理解、国際貢献が重点指導内容項目に設定されている。	●「教材一覧表」 (1年p.190～191、2・3年p.198～199)

14	他教科等との関連を図り、教育活動全体で行う道徳教育の要となる道徳科を実現することができるか。	教材冒頭に他教科等との関連を示すマークを付し、主にどの教科と関連して扱うことができるかが示されている。	●各教材冒頭右下
		各教材冒頭のQRコードから、関連する他教科等の教科書紙面を見ることができる。	●「六千人の命のビザ」(2年p.42、社会科歴史的分野の紙面)、等
		各学年巻末の「教材一覧表」に、他教科等との関連が明示されている。	●「教材一覧表」 (1年p.190～191、2・3年p.198～199)
15	各学校の道徳教育の全体計画に基づき、道徳科の年間指導計画を効果的に作成できるか。	生徒の発達段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された年間指導計画を作成できるように、各学年巻末に内容項目や学習のテーマ、関連する主なテーマ、他教科等との関連、QRコンテンツなどを一覧できる「教材一覧表」が取り上げられている。	●「教材一覧表」 (1年p.190～191、2・3年p.198～199)
		学校行事や生徒の生活実態に合わせ、指導内容と指導時期を考慮して教材が配列されている。	●「目次」(各学年巻頭)

指導上の配慮

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
16	生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握するなど、生徒の成長を促す道徳科の評価を行うことができるか。	学期ごとに自己評価用紙「自分の学びをふり返ろう」が切り取り式で用意されている。生徒が自己評価を行い、切り取って提出することで、評価の材料として活用することができる。	●「自分の学びをふり返ろう」 (1年p.193～197、2・3年p.201～205)
17	生徒や学級の実態、生徒の発達段階などに応じて、教材の多様な提示方法を工夫することができるか。	読み物教材に加え、写真や挿絵、ポスターなどのビジュアルから考える教材や、漫画を活用した教材、グラフから考える教材など、多様な教材が掲載されていて、提示方法を工夫し、生徒の学習意欲を喚起することができるよう配慮されている。	●「いじめに当たるのはどれだろう」 (1年p.22～24) ●「魔法使いの少年－いつかの自分」 (2年p.50～53) ●「スマホに夢中！」(3年p.126～127)
		NHK for Schoolの映像を紙面化した教材が全学年に用意されていて、状況に応じて動画で授業を行うことができる。	●「ぼくらの村の未来」(1年p.120～123) ●「やっちゃんのなやみ」(2年p.144～147) ●「外国から来た転校生」(3年p.46～49)
18	生徒が自分の考えを基に話し合ったり、書いたりするなどの言語活動を充実することができるか。	全教材に「つぶやき」を設け、考えたことをメモできるよう配慮されている。メモしたことは話し合いにも活用できる。	●各教材脚注「つぶやき」
		各教材冒頭のQRコードから、ワークシートをダウンロードすることができる。ワークシートを活用することで言語活動が展開できるよう配慮されている。	●ワークシート(教材冒頭のQRコード)
		各学年巻末の「心情円」を活用することで、話し合いが苦手な生徒も話し合いに参加しやすくなるよう配慮されている。	●「心情円」(各学年巻末)
19	家庭や地域社会との連携を図ることができるか。	各学年夏休み前の時期に「道徳×情報モラル」教材と、情報モラルに関するコラム(Plus)を配置することで、夏休み中の情報機器の活用について家庭で確認することができるよう配慮されている。	●「SNSに友達への悪口を書く」と (1年p.40～43)、等 ●「情報機器の使い方を考えよう」(1年p.44)、等
		家庭との連絡を行うための「道徳通信」を収録した教師用指導書の発行が予定されている。	●教師用指導書
20	指導のねらいに即して、問題解決的な学習や体験的な学習（役割演技）等、さまざまな学習方法を取り入れることができるか。	自ら問題を設定し、問題を解決する過程で、道徳性を養う教材が全学年に配置されている。	●「その子の世界、私の世界」 (3年p.102～105)、等
		教材に即して役割演技を行うコラム(Plus)が全学年に配置されている。	●「缶コーヒーをめぐるやりとりの場面をやってみよう」(3年p.142～143)、等

21	若手教員の支援に配慮されているか。	全教材に学習のテーマを設定し、その教材で考える内容がぶれないよう配慮されている。	●各教材冒頭
		主な発問が2問に絞られているので授業のポイントがひと目で分かるとともに、「ぐっと深める」発問を補助発問として活用することにより、生徒がより深く考えられるよう配慮されている。	●各教材末「考えよう」「見つめよう」 「ぐっと深める」(発問)
22	ICT端末の活用に配慮されているか。また、QRコンテンツを活用した授業ができるよう配慮されているか。	全ての教材で、冒頭のQRコードからICT端末を活用して、朗読音声、ワークシートなどのQRコンテンツにアクセスすることができる。	●各教材冒頭のQRコード (3学年のQRコンテンツ総数は309個)
		授業の導入や終末で活用する映像を視聴できる教材が随所に掲載されている。	●「倉橋選手のメッセージ」 (1年p.80、QRコード) ●「吉藤オリィさんのメッセージとOriHimeの活動」(2年p.8、QRコード) ●「宇宙で船外活動を行う野口聡一さん」 (3年p.165、QRコード)
		全学年に本編教材と同じ内容の動画を視聴できる教材が掲載されている。動画教材として、教科書の教材文と同様に活用することができる。	●「ぼくらの村の未来」(1年p.120～123) ●「やっちゃんのなやみ」(2年p.144～147) ●「外国から来た転校生」(3年p.46～49)
		人物教材を中心に、教材の理解を支援する動画をQRコードから視聴することができる。	●「植松努さんのメッセージ」 (1年p.8、QRコード) ●「館野泉さんのピアノとメッセージ」 (2年p.58、QRコード) ●「大石又七さんのメッセージ」 (3年p.111、QRコード)
23	特別活動との接続が考えられているか。	コラム(Plus)ではソーシャルスキルなどが取り上げられていて、特別活動との接続を図ることができる。	●「思いこみに気づく」 (1年p.119、アンコンシャスバイアス) ●「怒りの感情との付き合い方」 (2年p.138、アンガーマネジメント) ●「人にものを、どうたのむ？」 (3年p.137、コグトレ)
24	小学校や高等学校との連携が図られているか。	全学年に小学校の道徳でなじみのある教材を配置し、小学校での学習を想起しながら道徳的価値について考えることができるよう配慮されている。	●「橋の上のおおかみ」(1年p.172～174) ●「泣いた赤鬼」(2年p.179～182) ●「青の洞門」(3年p.175～180)
		18歳からの選挙権について考える教材やコラム(Plus)が配置されている。	●「コスモスの花をさかせよう」(3年p.86～90) ●「十七歳、選挙について考えてみた」(3年p.91)
25	学年間の連携が図られているか。	4人の登場人物が友情を育む物語が、3学年にわたって連載する形で掲載されている。	●「出会い－アンドロイドと不気味の谷」 (1年p.90～93) ●「気づき－ドッジボールとぼくらの温度差」 (2年p.169～172) ●「語らい－私たちが出会う新しい私たち」 (3年p.98～101)
26	複式学級における学習指導に配慮されているか。	いじめ問題、生命の尊さ、情報モラル、SDGs、自己肯定感をテーマにした教材やユニットが、各学年同じ時期に配置されていて、異学年同内容での複式指導に配慮されている。	●「目次」(各学年巻頭)



3 教育課題への取り組み

現代的な課題への対応



No.	検討の観点	内容の特色	具体例
27	現代的な課題について適切に扱えるように構成されているか。	各学年に現代的な課題を題材とした教材が複数配置されていて、身近な社会問題を自分との関係において考えられるよう構成されている。	●「ごみ箱をもっと増やして」(1年p.107～109) ●「注文をまちがえる料理店」(2年p.108～112) ●「きれいな川」(3年p.118～121)
28	生徒がいじめの防止について考え、対応した指導ができるよう配慮されているか。	各学年にユニット「いじめのない世界へ」を配置し、複数教材を通して多面的・多角的に、いじめ問題に向き合うことができるよう配慮されている。	●「いじめのない世界へ」 (1年p.21～33、2年p.23～33、3年p.23～35)
		1年では、教室のイラストから、いじめの場面を考えさせうえで、特に傍観者について取り上げることができるよう構成されている。	●「いじめに当たるのはどれだろう」 (1年p.22～24)、等
		2年では、絵本や漫画、文章を基に、いじめの4層構造のそれぞれの立場から、いじめの問題を考えることができるよう構成されている。	●「私のせいじゃない」(2年p.24～27)、等
		3年では、実際に中学生が行った「いじめサミット」を教材化し、中学生の目線で、いじめ問題を考えることができるよう構成されている。	●「いじめから目をそむけない」 (3年p.33～35)、等
29	生徒が生命の尊厳について考えることができるよう配慮されているか。	各学年にユニット「いのちを考える」を配置し、複数教材を通して、多面的・多角的に「いのち」の大切さについて考えることができるよう配慮されている。	●「いのちを考える」 (1年p.63～76、2年p.71～86、3年p.65～76)
		各学年に防災を題材とした「道徳×防災」教材を配置し、災害時に命を守ることの大切さを学ぶことができるよう配慮されている。	●「夕暮れどきの避難」(1年p.73～75) ●「水辻村の決断」(2年p.83～85) ●「避難所での出来事」(3年p.73～75)
30	生徒が自己肯定感を育むことができるよう配慮されているか。	各学年2月に自己肯定感を高めるための教材を配置し、1年間の学習で育んできた自己肯定感を確認し、次の学年に進むことができるよう配慮されている。	●「自分の性格が大嫌い！」(1年p.150～153) ●「私は十四歳」(2年p.160～163) ●「幸せに生きる道－滝沢ななえ」 (3年p.150～153)
31	生徒が情報モラルを育むことができるよう配慮されているか。	各学年に2～3本、「道徳×情報モラル」教材を配置し、情報モラルについて学ぶことができるようになっている。夏休み前に必ず1教材が配置されていて、家庭でも確認することができるよう配慮されている。	●「SNSに友達への悪口を書く」と (1年p.40～43)、等 ●「『いいね』のために？」(2年p.54～56)、等 ●「合格通知」(3年p.36～39)、等
		各学年に情報モラルに関するコラム(Plus)を配置し、情報モラルの知識を学ぶことができるよう構成されている。情報モラルのコラムでは、QRコードからアニメーション教材を視聴することができる。	●「情報機器の使い方を考えよう」(1年p.44) ●「それは思いこみでは？」(2年p.57) ●「忘れられる権利」(3年p.40)
32	生徒が防災や安全について考えることができるよう配慮されているか。	全学年に防災を題材とした「道徳×防災」教材を配置し、災害時における道徳的判断力を育むことができるよう配慮されている。教材冒頭のQRコードからは、災害の状況をCGで再現した360度の防災動画を視聴することができる。	●「夕暮れどきの避難」(1年p.73～75) ●「水辻村の決断」(2年p.83～85) ●「避難所での出来事」(3年p.73～75)
		全学年に震災に関連する教材を配置し、防災について考えることができるよう配慮されている。	●「震災の中で」(1年p.134～137) ●「田老の生徒が伝えたもの」(2年p.152～155) ●「一冊の漫画雑誌」(3年p.171～174)

さまざまな教育課題への取り組み

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
33	伝統や文化を適切に扱い、生徒が地域社会や郷土、国について深く考えることができるよう配慮されているか。	和菓子や和食、花火などの伝統、文化を通し、日本のよさを知り、さらに発展させることを考えることができるよう配慮されている。	●「古都の雅、菓子の心」(1年p.129～132) ●「和食のこころ」(2年p.19～22) ●「花火と灯ろう流し」(3年p.54～57)
		Jリーグが行っている地域貢献活動を教材として取り上げることで、自分の地域のJリーグチームの活動について調べ、郷土についてより深く考えることができるよう配慮されている。	●「地域を愛するプロサッカーリーグ」 (3年p.18～22)

34	先人の伝記を基にした教材を掲載し、生徒が自分の生き方について深く考えることができるよう配慮されているか。	教材やコラム(Plus)で先人を取り上げ、先人のさまざまな生き方や考え方に触れることができるよう配慮されている。	●「女子教育の夜明け－津田梅子」 (2年p.129～132)、等
35	スポーツを題材とした教材を掲載し、生徒が興味・関心をもって自分の生き方について考えることができるよう配慮されているか。	全学年でスポーツ選手を取り上げ、スポーツ選手の生き方や考え方を参考に、自分の生き方について考えることができるよう配慮されている。	●「私はここにいる－倉橋香衣」(1年p.80～83) ●「日々を支える、散歩と朝ご飯－阿部 詩」 (2年p.67～70) ●「自分を変える力－桃田賢斗」 (3年p.122～125)
36	生徒が国際理解教育、平和教育について考えることができるよう配慮されているか。	世界各地で起きている児童労働問題について考えることを通して、国際理解について考えを深めることができるよう配慮されている。	●「その子の世界、私の世界」(3年p.102～105)
		第二次世界大戦時の白黒写真をカラー化することで、戦争を身近な問題として捉えさせ、平和について深く考えることができる教材が付録に用意されている。	●「AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」(2年p.188～192)
37	SDGsについて適切に扱い、生徒が持続可能な発展について考えることができるよう配慮されているか。	本編教材やコラム(Plus)に、SDGsに関する題材が豊富に用意されている。特に各学年11月には必ずSDGsに関する教材が配置され、系統的に学習することができるよう配慮されている。	●「ごみ箱をもっと増やして」 (1年p.107～109)、等 ●「冬の使者『マガン』」(2年p.113～117)、等 ●「きれいな川」(3年p.118～121)、等
		全学年の付録にSDGsに特化した教材3本をまとめ、17のゴールのうち該当するアイコンを明示し、持続可能な発展について深く考えることができるよう配慮されている。	●「道徳×SDGs」 (1年p.175～189、2年p.183～197、3年p.181～197)
38	自然や環境問題について、生徒が問題意識をもって考えることができるよう配慮されているか。	内容項目D(20)自然愛護の教材は、文章、動画、グラフなど、多様な教材を用意することで、生徒が問題意識をもって主体的に考えることができるよう配慮されている。	●「ぼくらの村の未来」 (1年p.120～123、動画) ●「冬の使者『マガン』」 (2年p.113～117、グラフ) ●「きれいな川」(3年p.118～121、文章)
39	生徒が消費者教育について考えることができるよう配慮されているか。	食料を無駄にしない取り組みなどを紹介することで、消費者教育について考えることができるよう配慮されている。	●「飢餓をゼロに」(2年p.184～187) ●「救缶鳥プロジェクト」(3年p.192～197)
40	生徒が主権者教育について考えることができるよう配慮されているか。	子供が主体的に町づくりに参加したり、大人が選挙に投票に行くかどうかを迷ったりする話を教材やコラム(Plus)として掲載することで、主権者教育について考えることができるよう配慮されている。	●「コスモスの花をさかせよう」(3年p.86～90) ●「十七歳、選挙について考えてみた」(3年p.91)
41	生徒が法教育について考えることができるよう配慮されているか。	ごみ捨てや動物園の入園のルールなどを通して、決まりの意義や大切さについて学ぶことができるよう配慮されている。	●「父の手作りのベンチ」(1年p.50～53) ●「二通の手紙」(3年p.13～17)
42	生徒が知的財産権について考えることができるよう配慮されているか。	情報モラルの教材として、登場人物2名が無断で他人の著作物を公開しようとする内容の漫画を掲載。著作権について説明するコーナーも配置することで、知的財産権について考えることができるよう配慮されている。	●「『いいね』のために？」(2年p.54～56)
43	生徒が心身の健康の保持、増進について考えることができるよう配慮されているか。	睡眠や朝食の大切さや、スマホなどの電子機器を使う時間について考える教材やコラム(Plus)を配置し、心身の健康の保持、増進について考えることができるよう配慮されている。	●「山に来る資格がない」(1年p.34～37) ●「情報機器の使い方を考えよう」(1年p.44) ●「日々を支える、散歩と朝ご飯－阿部 詩」 (2年p.67～70)
44	生徒がキャリア教育について考えることができるよう配慮されているか。	看護師や相撲のよびだし、電車の運転士や航海士など、さまざまな職業の人を教材やコラム(Plus)で紹介することで、いろいろな仕事について興味をもって考えることができるよう配慮されている。	●「『看護する』仕事」(1年p.140～143) ●「おれ、よびだしになる」(1年p.184～188) ●「キラリ仕事人－かがやいている人、見つけた」 (1年p.49、2年p.107)
		将来、どのような職業に就くべきかという悩みに対して、4人の人生の先輩が自分の考えを投稿している新聞記事を教材化することで、自分の将来について考えることができるよう配慮されている。	●「好きな仕事か安定かなやんでいる」 (3年p.107～109)

45	生徒が 食育 について考えることができるよう配慮されているか。	伝統的な和食について、料理人の村田吉弘さんが語る話を教材化することで、 和食に込められた思い に触れることができる。	●「和食のこころ」(2年p.19～22)
		柔道家の阿部詩さんが朝ご飯について語る話を教材化することで、 朝食をとることの大切さ について考えることができる。	●「日々を支える、散歩と朝ご飯－阿部 詩」(2年p.67～70)
46	生徒が LGBT などの 性の多様性 や ダイバーシティ（多様性） など、 人権教育 について考えることができるよう配慮されているか。	自分が セクシャルマイノリティ であることをカミングアウトした元バレーボール選手を教材化することで、 LGBT について考えることができるよう配慮されている。	●「幸せに生きる道－滝沢ななえ」(3年p.150～153)
		女子教育に尽力した津田梅子や、 男女の平等 について提唱する絵本を教材化することで、 ジェンダーの問題 について考えることができるよう配慮されている。	●「女子教育の夜明け－津田梅子」(2年p.129～132) ●「女子昔ばなし」(3年p.186～190)
		パラリンピック や「ゆるスポーツ」、 コミュニケーション支援ロボット や 認知症 、 外国人への差別問題 、 児童労働問題 などを教材やコラム(Plus)で取り上げることで、 誰もが平等に参加できる社会の実現 について考えることができるよう配慮されている。	●「私はここにいる－倉橋香衣」(1年p.80～83) ●「私の『ふつつ』と、あなたの『ふつつ』」(1年p.115～118) ●「『できない』には価値がある－吉藤オリィ」(2年p.8～11) ●「注文をまちがえる料理店」(2年p.108～112) ●「その子の世界、私の世界」(3年p.102～105) ●「みんなでいっしょに『ゆるスポーツ』」(3年p.154)

④ 全ての生徒が使いやすい教科書への配慮

表記・表現

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
47	本文の書体や大きさは、生徒の発達段階に配慮されているか。	一般的な書体よりも少し太い ユニバーサルデザインフォント を使用することで、読みやすさについて配慮されている。また、文字の大きさも、中学生が読むのに適した大きさとなっている。	●各学年の各教材
48	挿絵や写真、図版の大きさや配置は工夫されているか。	挿絵や写真、図版は、見やすい大きさで、適切な位置に配置されている。特に、内容項目D（21）感動、畏敬の念を扱う教材については写真を大きく掲載し、人間の力を超えたものを感じることができるよう配慮されている。	●「火の島」(1年p.144～149) ●「夜は人間以外のものの時間」(2年p.164～168) ●「ハッチを開けて、知らない世界へ」(3年p.165～169)
49	表記・表現は、生徒の発達段階に配慮されているか。また、読み取りやすいものになっているか。	漢字は、固有名詞や交ぜ書きになる熟語を除き、原則、 小学校までに学習した漢字 を使用することで、中学生が「読み」でつまづかないよう配慮されている。	●各学年の各教材
		中学生にとって難しい表現を避けることで、 読解に時間がかからない よう配慮されている。	●各学年の各教材
50	関連するウェブサイトへ遷移する QRコード は、適切に配置されているか。	関連するウェブサイトへ遷移する QRコード は 教材冒頭の定位置 に掲載され、生徒の学びを阻害しないよう配慮されている。	●各教材冒頭右下(QRコード)
		各学年冒頭に QRコンテンツの使用について紹介するページ が設けられていて、QRコンテンツを使用する際に参照できる。	●「デジタルコンテンツで学びを広げよう」(各学年p.7)

造本・印刷

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
51	文字、挿絵、図、写真などの印刷は鮮明で見やすいか。	印刷は鮮明で見やすく、目に優しい色を基調に構成されている。色校正を重ね、生徒の学習意欲を喚起するよう工夫されている。	●教科書全体

52	製本は堅牢で、環境やアレルギーに配慮されているか。	製本は強力な接着剤を採用したあじろ綴じで、教科書を広く開くことができ、強く開いても壊れない強度がある。	●教科書全体
		環境に優しい再生紙や化学物質を抑えた植物油インキを使用するなど、環境やアレルギーに配慮されている。	●教科書全体
53	教科書の重量は、生徒の身体的な負担に配慮されているか。	軽量で丈夫な用紙が採用され、ワイドな判型でありながら、重量による身体的な負担を軽減するよう配慮されている。	●教科書全体
54	造本は生徒の感性に訴えかけるよう工夫されているか。	生徒の心に訴えかけるよう、視覚効果の高いワイドなAB判が採用されている。	●教科書全体
		各学年巻末に、切り取り式の自己評価用紙と心情円が用意され、自己評価や話し合いの活動の際に活用できるよう工夫されている。	●教科書全体



人権上の配慮

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
55	掲載されている挿絵や写真は、ダイバーシティ（多様性）に配慮されているか。	制服のスラックスをはいた女子や、多様な国籍の生徒が描かれ、ダイバーシティに配慮されている。	●「いじめに当たるのはどれだろう」(1年p.22～24)、等
		日本で暮らす外国籍のかたや障がいのあるかた、差別を受けていたかたなど、さまざまな立場や状況の人を教材として取り上げることで、生徒がダイバーシティについて考えることができるよう配慮されている。	●「私の『ふつつ』と、あなたの『ふつつ』」(1年p.115～118) ●「『できない』には価値がある－吉藤オリィ」(2年p.8～11) ●「伝えたいことがある」(3年p.111～115)

特別支援教育・ユニバーサルデザイン

No.	検討の観点	内容の特色	具体例
56	誰一人取り残されることのない学びを実現できるよう、特別支援教育に配慮されているか。	特別支援教育の観点から、デザインや内容の検討や校閲をしていることが奥付に明記されている。	●奥付(各学年裏表紙)
		本文の書体は、太さの抑揚を抑え、ロービジョン(弱視)、ディスレクシア(読み書き障がい)に配慮されたユニバーサルデザインフォントが使用されている。	●各学年の各教材
		教材末の発問やキャラクターの吹き出し内のせりふなど、生徒への問いかけ文は文節で改行し、読み取りやすさに配慮されている。	●各教材末(発問) ●各キャラクターのせりふ(1年p.4～5、等)
57	カラーユニバーサルデザインへの配慮から表現が工夫されているか。	色覚問題の専門家の協力を得て、全ページの配色や色に関わる表現の点検や校閲をしていることが奥付に明記されている。	●奥付(各学年裏表紙)
		地図の記号等では、色覚特性に配慮した色が採用されている。	●「田老一中生がにげた方向」(2年p.153、地図)
58	外国籍の生徒や視覚障がいのある生徒、読字障がいのある生徒など、教材を読むことが困難な生徒に配慮されているか。	全教材に付いているQRコードから、朗読音声聞くことができる。朗読のスピードが調節できるようになっていて、各生徒の読解の速度の違いに配慮されている。	●朗読音声(教材冒頭のQRコード)
		教材文と全く同じ内容の映像をQRコードから視聴することができる教材が、各学年に用意されている。	●「ぼくらの村の未来」(1年p.120～123) ●「やっちゃんのかなやみ」(2年p.144～147) ●「外国から来た転校生」(3年p.46～49)
59	発行が予定されている学習者用デジタル教科書は、特別な配慮を必要とする生徒に配慮されているか。	学習者用デジタル教科書には、文字の色やフォントの変更、リフロー表示、機械音声による読み上げ、総ルビ・分かち書き表示などの機能が搭載されていて、多様な生徒のニーズに応え、学びを支えることができる。	●学習者用デジタル教科書